

鹿児島市上町地区における歴史を活用した持続可能なまちづくり推進プロジェクトのための調査・分析プロジェクト

プロジェクト参加教員

プロジェクト責任者：金子 満（法経社会学科准教授）
プロジェクト協力者：日高 優介（「鹿児島の近現代」教育研究センター特任助教）

プロジェクトの目的

鹿児島市上町地区は、島津家6代当主氏久が薩摩の拠点として東福寺城を構えたことに始まる鹿児島城下の中心地であり、史跡等が多く残る歴史と文化の町である一方で、近年、鹿児島市街地が南へと広がっていく状況の中、「まちづくりをどのような方向で進めるか」という課題についておよそ10年の間、常に向き合ってきた地域でもある。

また、施設としても県立石橋記念公園や尚古集成館をはじめとした世界文化遺産など歴史に関する施設やJR鹿児島駅といった施設もあり、それらを生かすべくまちづくりを進めてきた。本プロジェクトでは、これらの実績や成果を整理しつつ、あらためて地域の特徴である歴史や文化をどのようにまちづくりに生かしていくかについて、調査分析を行うことを目的とした。

プロジェクトの内容

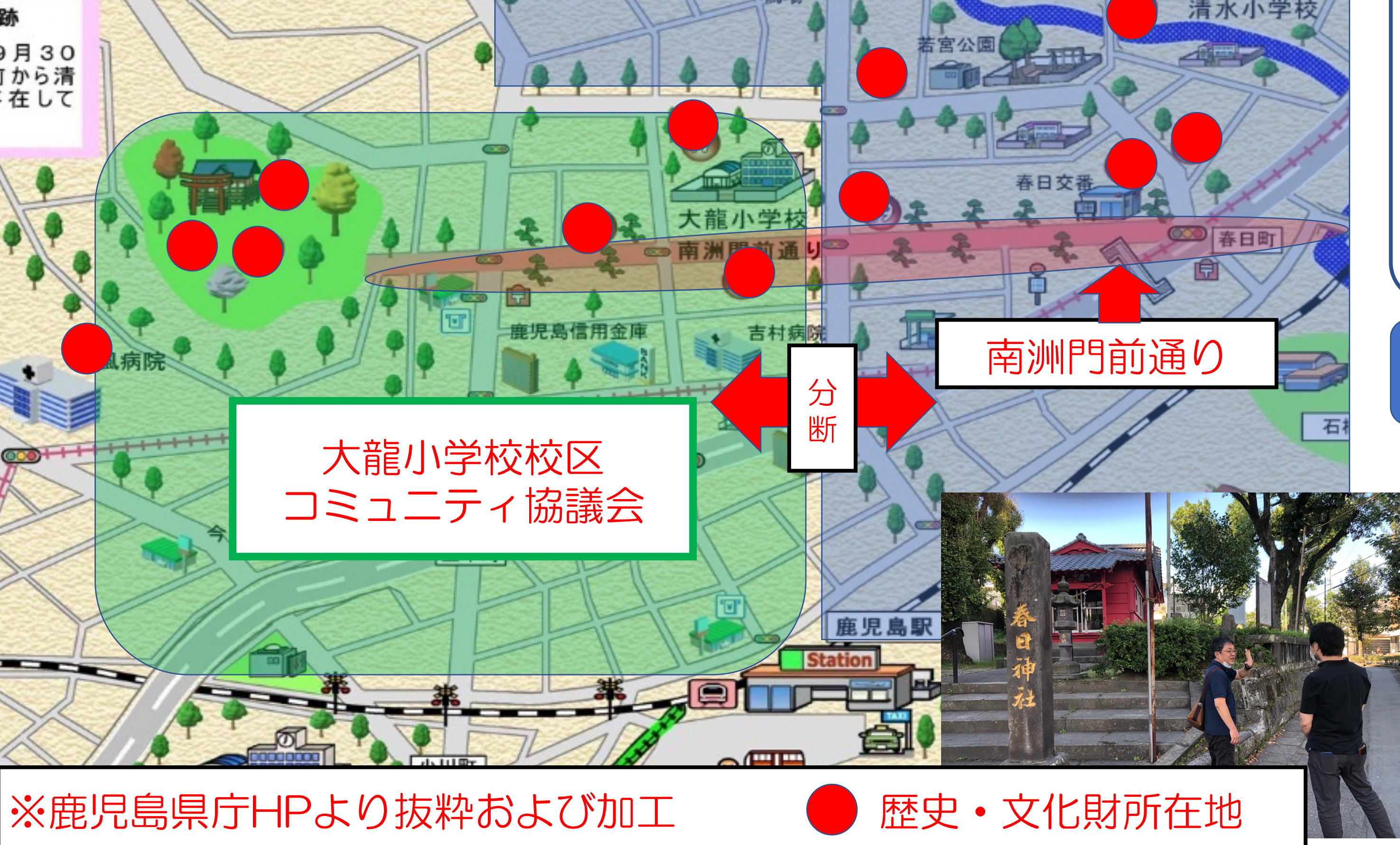
フィールドワーク

ヒアリング及び交流会

シンポジウム

上町エリア・フィールドワーク

上町エリアマップ



※鹿児島県庁HPより抜粋および加工

● 歴史・文化財所在地

【フィールドワーク概要】

鹿児島市上町地区内にある3つの通り会「南洲門前通り会」「上町南風通り会」「たてばば通り会」を構成員とする「かんまちサンクチュアリ」のメンバーである春山氏の案内により上町エリアのフィールドワークを行った。主に同エリアに存在する歴史・文化財についての確認と、これらを踏まえた地域活動や地域課題等についてレクチャーを受けた。

【成果】

上町エリアの歴史や文化を踏まえた様々な地域活動が行われているが、その活動単位が小学校および、同区を基盤とするコミュニティ協議会を中心に実施されているケースが多い。その結果、上町の歴史や文化における相互の関連性と行政によるコミュニティの区分けは全く関係ないにもかかわらず、連絡調整や活動による連携において課題があることが明らかとなった。

（例）南洲門前通りが2つの校区にまたがることによる活動の分断を確認

ヒアリング及び交流会



【ヒアリング及び交流会概要】

鹿児島市上町地区内で活動する「上町タウンマネジメント」「かんまちサンクチュアリ」のメンバーおよびコミュニティ協議会委員の方々と数回にわたり地域課題に関するヒアリング及び交流会を行った。

【成果】

上町エリアの歴史や文化に関する話題において「かんまちあ有効活用」「旧藤武邸問題」など多岐にわたって話題が広がった。歴史・文化財が集積している上町において様々な外部の研究者や専門家とのかかわりがあったが、それぞれの専門における一時的なアドバイスがメインで、連続性がなかった。今回の研究会において大学における歴史や文化等の専門的な知識のみならず、これらを活用した観光資源やコミュニティ形成等に関するアドバイス等の重要性について議論された。

シンポジウム



【シンポジウム概要】

これまでの上町地区での歴史と地域づくりの取り組みを総括し、これから鹿児島大学と連携し進めていく歴史をいかした地域づくりのキックオフの位置づけとする。まず前半では、上町エリアに対する鹿児島大学側の研究蓄積の紹介として「鹿児島の近現代」教育研究センター長である丹羽先生より基調講演を実施してもらい、後半では、フィールドワークで明らかとなった、上町の歴史や文化とまちづくり活動との関係における分断要因の一つである、「小学校区を軸とした各種実践における分断問題」についてより深く議論するために、大龍小学校および清水小学校の両PTA会長、大龍校区コミュニティ協議会会長をお呼びし、上町域における2つの校区コミュニティの現状を確認し、歴史的な事実等を背景とした協力関係の構築を基にした未来への提言を行った。

【成果】

シンポジウムの結果、コミュニティ形成と同地域における歴史や文化の蓄積が必ずしも連動していない状況にあることが明らかとなった。また、まちづくりや地域づくりの方向性やビジョンが両地域において共有されているわけでもなく、それぞれが独自に活動を展開しており連携・協力体制が不十分であることが明らかとなった。これらの状況に対し、地域活動を行っている地域団体や企業は、もっと相互に連携協力ができるのではないかと提案がなされた。さらに、文化や歴史を軸にしたコミュニティ形成やまちづくり活動について「鹿児島の近現代」教育研究センターとの連携や大学生も含めた、実践・研究活動に大いに期待したいという要望が上がった。

今後の展望

今回の調査研究およびシンポジウムによって新たに提案された内容について

- ①センターの研究者と上町住民と合同で歴史や文化財の蓄積や学習に関するプログラムを作成
- ②地域のキーマン等を大学の講師として迎えるプログラム作成
- ③センターにて中長期的に地域づくりに大学生を参加させるプログラム作成
- ④大学生の研究フィールドとしての受け入れ
- ⑤センターが上町地区の歴史をまちづくりに活かすアドバイザーとして協力（センターと地域が直接つながりを持つことの重要性）